日本草地学会英文誌編集委員会主催オンラインセミナー

Grassland Science のメトリクスから考える研究の Visibility とそれを高めるチップス

日本草地学会の英文誌 Grassland Science（GRS）が、クライベイト・アナリティクス（旧トムソン・ロイター）の Web of Science に登録され、インパクトファクター（IF）が示されるようになっておよそ 10 年が経過しました。GRS の IF（2020 年度版）は 0.867 で、IF だけで見るとインパクトはまだまだ低そうです。Wiley は IF 以外にも様々な指標で GRS を分析しており、それらは Publisher's Report として英文誌編集委員会にフィードバックされます。そのなかには GRS のインパクトを高めるための提言もあり、新潟大会（2021 年 3 月）の編集委員会では Social Media とリンクした情報発信の有用性が強調されました。研究成果を国際誌に投稿する動機は様々ですが、掲載された論文がより多くの方に興味を持たれることを望まない研究者はいないでしょう。インパクトを示す指標として IF は変わらず重要ですが、ネットを通じて多くの情報が手に入れられる現在は、多様なメディアで研究の Visibility を高められる、それらが論文の被引用数増加にもつながると期待されます。

Publisher's Report とその関連情報は多くの方が興味を持つだろうと、オンラインセミナーで共有および意見交換することを企画しました。日本草地学会の会員に限定はせず、学生、大学院生を含む若手研究者が参加しやすくなるようにしています。もちろん、エキスパートの方にも参加いただきたい、議論いただきたい内容です。研究成果の公表、出版に関するものであれば、広く質疑応答の対象になります。若手から熟練が集う、カジュアルなセミナーをオンラインで。

日本草地学会英文誌編集委員会

日時：2021 年 7 月 21 日（水）16:00～17:30
形式：Zoom でのオンライン
会費：無料（どなたでも参加できます。草地学会の会員、非会員は問いません。事前登録のみ必須とします。）
内容：

1. イントロダクション（16:00～16:05）
   西野直樹氏（GRS 編集委員長、岡山大学）
2. Grassland Science の編集、出版状況アップデート（16:05～16:15）
   堤　道生氏（GRS 編集幹事、農研機構西日本農業研究センター）
3. Grassland Science のメトリクスと Visibility 向上に有用なチップス－Publisher's Perspective－（16:15～16:45）
   岩崎祥代氏（Wiley）
4. 質疑応答および意見交換（16:45～17:30）

世話人：西野直樹（岡山大学）、堤　道生（農研機構）、石垣元気（宮崎大学）、浅野桂吾（石川県立大学）、中野美和（農研機構）、三ツ橋昇平（農研機構）、金子　真（農研機構）
問合せ先：日本草地学会英文誌編集委員会（Email: grs-edit@grasslandscience.jpn.org）

事前登録 URL（必要事項を記入ください。折り返し招待メールが送付されます）
https://zoom.us/j/91326373550?pwd=a3c5NVkrSXEzT0dzcGdrSFM5ZEJsQT09